

令和4年度 第1回岐阜県古代・中世寺院跡総合調査検討委員会 議事録（要旨）

日 時	令和4年9月10日（土） 13：30～15：30
場 所	岐阜県図書館特別会議室
参加者	<p>（委員） 三輪嘉六 文化財保存支援機構理事長・山梨大学客員教授          菱田哲郎 京都府立大学文学部教授          上川通夫 愛知県立大学日本文化学部教授          村木二郎 国立歴史民俗博物館准教授          林正憲 奈良文化財研究所考古第三研究室長          藤岡英礼 滋賀県栗東市教育委員会スポーツ・文化振興課主査</p> <p>（オブザーバー） 長直信 文化庁文化財第二課調査官</p> <p>（事務局） 文化財保護センター          岡田知也 所長          三輪晃三 調査課調査課長          近藤正枝 調査課調査第二係長          柴山慶祐 調査課調査第二係主査          櫛田尚人 調査課調査第二係主査          日置真穂 調査課調査第二係主任          文化伝承課          小野木学 記念物保護係長          吉村晶 記念物保護係主査          小林新平 記念物保護係主任</p>
議事要旨	
<p><u>(1) 報告書総括</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膨大な資料をまとめ、その資料の上にこの総括があるというのが大変重みがある。</li> <li>・成立年代の扱い方について、縁起などを根拠にしているところがあるので、そのことを明記する。</li> <li>・第2節立地の状況と第3節立地の検討をもう少しリンクして記述する。</li> <li>・踏み込んだ内容を書いても良いという所もあるが、事実記載に特化するならこの方針が良い。</li> <li>・古代・中世寺院が飛騨と美濃で1,918か寺あり、文献史学の認識変更を強く迫る威力を感じる。</li> <li>・成立年代の表現で、7世紀以前や飛鳥時代以前という表現は、7世紀や飛鳥時代に修正する。 伝承根拠は考古学上の裏付けも文献史学上の裏付けもないが、伝承の重要性があり表現を考慮して欲しい。</li> <li>・この報告書を基に、今後の展開は全国の見本となる形への流れが求められ、先駆的な業績と評価する。</li> </ul> <p><u>(2) 岐阜県における古代・中世寺院跡の保存・活用について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寺院の年代は、古代に遡る寺も調査で明らかになるのは中世の姿のため、年代の示し方に工夫が必要である。</li> <li>・遺跡地図への記載で他府県の状況を見ると、山寺は遅れている。山寺を補えた業績は大きい。</li> <li>・寺院跡だけでなく、関連遺跡も含め周囲を囲む形で指定を考える必要がある。</li> <li>・調査成果の地元への説明の機会や、理解してもらえるようなあり方を考える必要がある。また、地元の文化財担当者等の専門職に対し調査成果を普及する。</li> <li>・今後、研究紀要などの媒体を使い、報告書に間に合わなかった研究成果について書く必要がある。</li> <li>・教職員に地元の遺跡にこのようなものがあることを周知し、地元での地道な普及が必要である。</li> <li>・関心のある人を集めてシンポジウムを開くと良い。</li> </ul>	